

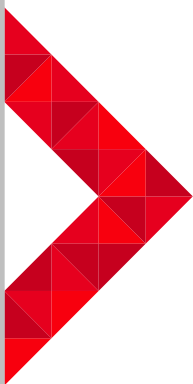


KIRIN

よろこびがつなぐ世界へ
Joy brings us together

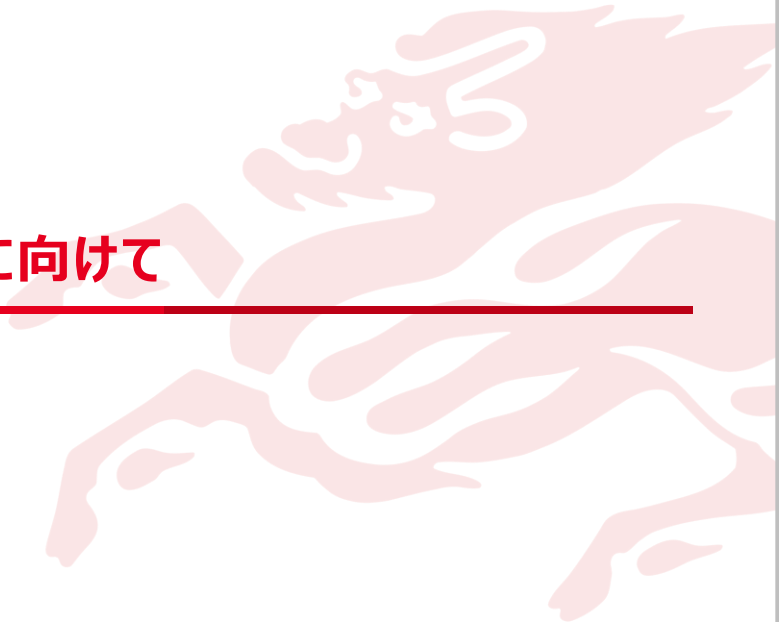
キリングroup° 2024年度12月期 第2四半期決算

2024年8月6日



企業価値向上に向けて

Joy brings us together



- 皆様、おはようございます。麒麟ホールディングスの磯崎です。
- 日頃は、キリングroup製品へのご愛顧、ならびに企業活動へのご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

将来の環境変化を見据えた最適な事業ポートフォリオを構築することで、企業価値向上を実現していく



© Kirin Holdings Company, Limited

➤ 中核事業の基盤を強固なものにすることがなによりも重要



酒類事業
update

- 日豪米の各エリアで勢いのある強いブランドが成長している



医薬事業
update

- グローバル戦略品の好調
- 開発パイプラインの拡充に向けて着実なステップを踏んでいる

➤ 次世代の成長ドライバーとなる事業も競合優位性を確立させていく



ヘルスサイエンス事業
update

- APACで事業基盤を確立するためのブランドと販路の獲得

- 周知の通り、キリングroupはビール事業を祖業として、発酵・バイオテクノロジーを根幹に様々な事業を展開しています。
- こうした事業にチャレンジしてきた理由は、将来の事業環境の変化を見据え、事業ポートフォリオを変えていく必要があったからです。
- 現在は、中長期の成長ドライバーとしてヘルスサイエンス事業を拡大している最中ですが、それが大きくなるまでは、中核事業である酒類事業と医薬事業を強くすることが大切です。
- まず酒類事業については、日本や豪州のビール事業でのマーケティングの強化により、力強いブランドが育ってきています。
- そして、医薬事業も、クリースビータやポテリジオのこれまで以上の拡大に加え、開発パイプラインの拡充に向けて着実なステップを踏んでおります。
- この強い既存事業があるからこそ、新規事業への参入が可能となり、グループ全体として持続可能な成長を実現することができると考えています。

M&Aにより取得した事業の多くはグループ内で着実な成長を実現

現事業ポートフォリオを構成している事業

売却済みの事業

M&Aにより取得した
事業会社によるEPS構成比

約40%

ボトラ事業のテリトリー拡大と必要な投資等による効率化により、収益性の大幅な向上を実現

2016年	2023年
事業利益 41億円 事業利益率 10%	339億円 14%

KYOWA KIRIN

自社のR&Dから複数のグローバル戦略品の開発に成功し、グループの中核事業へ成長

2016年	2023年
事業利益 515億円 事業利益率 15%	960億円 22%

LION

ABIブランドの譲渡、コロナ前後の市場の変化等の外部要因はあるが、事業価値向上に向けブランド強化・構造改革を実施中

2016年	2023年
事業利益 528億円 事業利益率 15%	324億円 12%

**SAN MIGUEL
BREWERY INC.**
Presidente de San Miguel Corporation

独占市場の中で、高い成長率を実現し、グループのEPS成長に貢献

2016年	2023年
持分法利益 約190億円	約300億円

**Four Roses
BOURBON**

米国のバーボン市場拡大を追い風に、プレミアム化を実現し、高収益事業に成長

2016年	2023年
事業利益 12億円 事業利益率 17%	90億円 37%

協和発酵バイオは早期に方向性を示すことを最優先に取り組んでいる

2020年以降のM&Aでは、北米クラフトビール事業やBlackmoresなど、今後も成長が見込まれる事業会社を取得。

ガバナンス体制強化

取得した豪州乳事業とブラジルのビール事業は当初の想定通りにかず撤退するも、M&Aや海外事業の知見を蓄積

中国飲料事業を現地企業とJVにより成長させ、取得価額を大幅に上回る価格で売却し、株主還元(自社株取得)を実施

ミャンマー事業は政変に伴う撤退までは想定以上の高い成長を実現

2011年	2022年
取得金額 約330億円	売却金額 約1,200億円

2016年	政策前(2020年)
事業利益 89億円 事業利益率 39%	138億円 43%

- キリングroupは、事業ポートフォリオの変遷の過程で、M&Aを積極的に活用してきました。
- 過去には北米のボトラ事業、オセアニアやフィリピンのビール事業などを取得し、酒類・飲料事業におけるグローバルな事業基盤を獲得してきました。
- これらの事業は、取得後もグループにおいて着実な成長を遂げ、今ではEPSに大きく貢献する事業に成長しています。
- また、中国における飲料事業は華潤創業と提携を結んだ2011年以降、順調に事業を拡大し、最終的には事業ポートフォリオの観点で持分の売却を行いました。この間に事業価値は何倍にもなりました。この売却により得たキャッシュで自己株買いを行い、追加の株主還元も実施しました。
- M&Aを行う上では、当初の想定通りとならなかったものもありますが、そのたびに適切な対応を行い、様々な知見をグループに蓄積してきました。
- ご心配をおかけしている協和発酵バイオは、早期に方向性を決めるべく、最優先で取り組んでいます。
- さらに、グループとして2016年以降、ガバナンス体制を見直し、改善を進めたことで、投資判断の際にも取締役会において多様な視点から議論が行えるようになっていきます。
- それにより近年では、北米クラフト事業のNew Belgiumや、豪州ヘルスサイエンス事業のBlackmoresなど、今後のグループの成長を牽引する事業を取得できました。
- 医薬事業は、自社の研究開発によりブロックバスターとなる薬を生み出し、現在のキリングroupの成長ドライバーの一つとなっています。今後も有望なパイプラインがありますが、同時に、将来の更なる成長に向けて、Orchard社の買収も行いました。
- これらの過去の例が示しているように、キリングroupは、イノベーションを活用したオーガニックな事業成長とM&Aの組み合わせでEPS向上を実現させております。

株式取得手続きの進捗

以下の条件により

なにげない感動をずっと。
FANCL

TOBプロセスを進める

- 買付価格：2,800円
- その他条件は変更しない

- 現時点における応募状況及び今後の応募の見通しを総合的に考慮
- 買付価格変更により応募を引き続き検討いただく機会を提供する
- 今後、一切、価格を変更しないことと、今回が最後の期間延長であることを8/6の取締役会で決定

15営業日延長

TOB期間

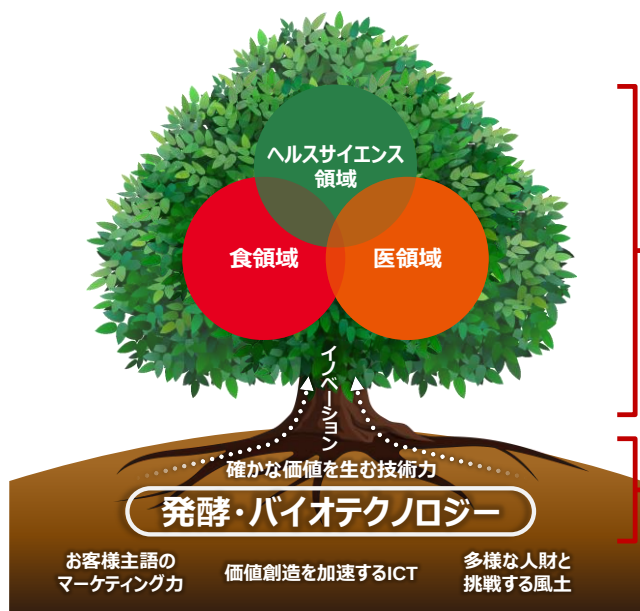
TOB期限
(再延長なし)

8/28

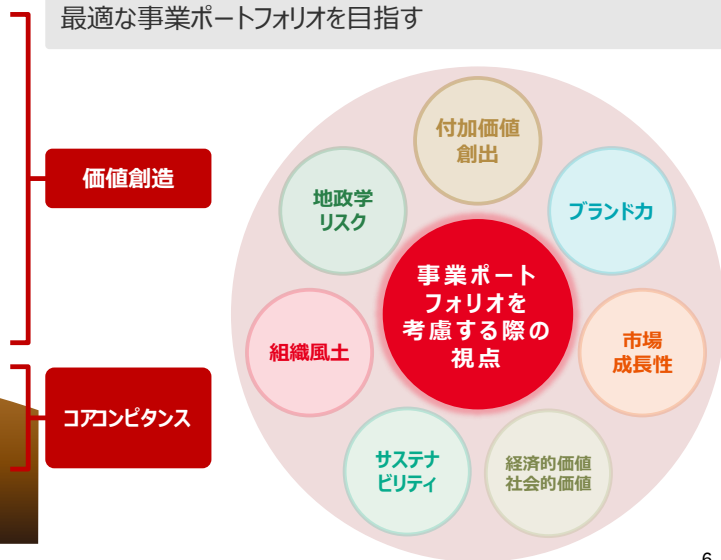
本件に対する考え方

- 本件の成功は2019年に描いたグループビジョンの実現に向けた重要なステップ
- キリンがFANCLにとってのベストオーナーであり、本TOBは2社の企業価値向上に資する
- ただし、キリンホールディングスの株主利益の観点から、この価格で成立しない場合は、別の事業ポートフォリオの選択肢を検討していく

- さて、今回、取り組んでいるFANCL株式のTOBについては、昨日、買付価格を2,800円に引き上げる、という条件変更を公表しました。
- これは、6月のTOB公表以降の応募状況や今後の応募見通し等に鑑みて、当初の買い付け価格より高い金額でFANCL株主の皆様へ売却の機会をご提供する、という趣旨で行うものです。
- 今回、TOBを進めているFANCLは、当社の長期経営構想であるKV2027の実現、ひいてはヘルスサイエンス事業の成長に向け重要なパートナーとして位置付けています。
- 6月にTOBを公表して以来、多くの投資家の方々からもキリンとファンケル2社による将来の姿を楽しみにしているという期待の声もいただいております。
- 昨年より、FANCLの完全子会社化については取締役会で度重なる議論を実施してきましたが、昨日も大変厳しい議論を行った末、今回、TOB成立のためには買付価格の引き上げも止む無し、という結論に至りました。
- そして、当社としまして、キリンホールディングスの株主の利益の観点から、今後の更なる価格変更は一切行わないことも、昨日の取締役会において決議いたしました。
- 当社の取締役会決議を受けて、FANCLの取締役会及び特別委員会も、当社提案に対する賛同意見と株主の皆様に対する応募推奨を維持継続することを表明しています。
- 今回、株主の皆様へ、本件についてしっかりご検討いただくために、期間は15日としました。
- TOB期間の延長は、今回が最後となりますので、FANCLの株主の皆様にはこの価格で応募いただきたいと考えております。
- 常に申し上げております通り、キリンがFANCLにとってのベストオーナーであり、今回のTOBにより完全子会社化することで2社の企業価値が向上するという考えは変わっておりません。
- しかし、残念ながら、今回の買付価格で本TOBが成立しない場合は、別の海外アセットの取得を検討する、あるいはブラックモアズへの投資を強化するなど、今後のヘルスサイエンス戦略の様々な選択肢を検討していきます。
- もちろん、今回のTOBが成立した場合には、これまでM&Aで取得した事業同様に、早速PMIに向けての本格的な議論を開始し、投資の成果をお見せしてまいります。
- FANCLブランドの原点であるスキンケア事業をフルに活用し、サプリメントとスキンケアによる内と外からのアプローチで、市場での競合優位性を構築していきます。



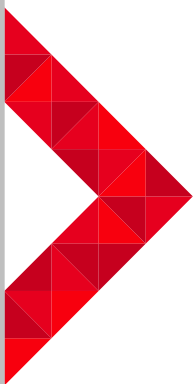
今後もCSVを経営の根幹に、発酵＆バイオ技術をベースとした事業を行うことに変わりはなく、戦略的意義に基づき3領域での最適な事業ポートフォリオを目指す



© Kirin Holdings Company, Limited

6

- 事業ポートフォリオの見直しに、ゴールはありません。
- グループのコアコンピタンスである発酵バイオテクノロジーを活用した事業を行うことに変わりはありませんが、CSVを経営の根幹に、内外環境の変化に合わせて事業ポートフォリオの見直しは継続的に行ってまいります。
- 事業ポートフォリオの取締役会での議論は、資本コストを意識しながら、成長性や効率性など様々な点を考慮し、定期的に行っております。
- 冒頭に申し上げた通り、キリングroupは経営環境の変化に対応しながら、持続可能な成長を実現できると確信しております。
- 今後も現状に満足せず、社会課題の解決に邁進してまいります。投資家の皆様との対話を積み重ね、課題を一つずつ解決することで、世界のCSV先進企業を目指します。今後のキリングroupの成長にご期待ください。



2024年 第2四半期決算概要

Joy brings us together



- 皆様、おはようございます。麒麟ホールディングスの秋枝です。
- 私からは、決算概要についてご説明いたします。
- それでは早速、決算説明資料の8ページをご覧ください。

各事業における売上収益の拡大や為替影響により、事業利益は大幅な増益を達成

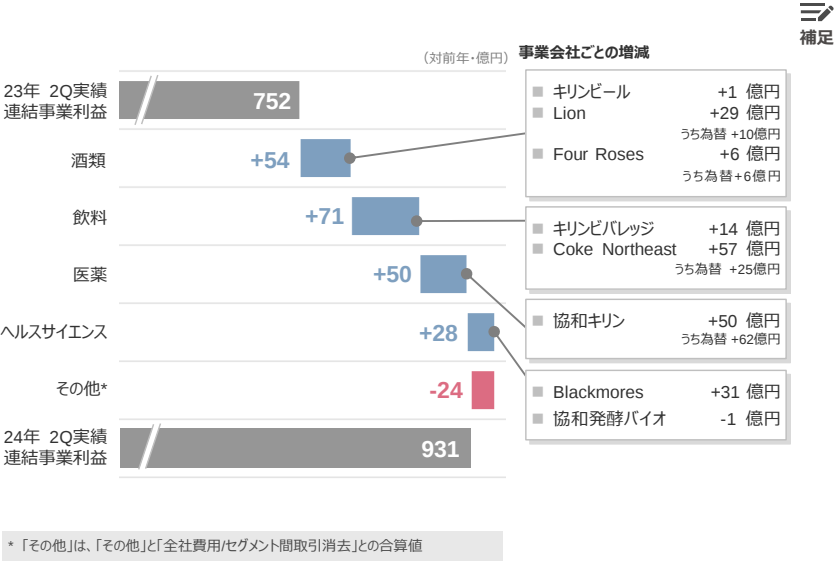
(億円)	24年2Q実績	23年2Q実績	増減	%
売上収益	10,958	9,702	1,256	12.9%
事業利益 *	931	752	179	23.8%
税引前中間利益	1,085	571	515	90.2%
親会社の所有者に帰属する 中間利益	572	320	252	78.9%
定量実績	24年2Q実績	23年2Q実績	増減	%
平準化EPS **	81円	73円	8円	11.0%

- 第2四半期の連結売上収益・事業利益は海外事業の好調や為替影響等により、計画を上回って推移
- 税引前中間利益と親会社所有者中間利益は、2023年の一時コスト***の反動により、増益
- 平準化EPSは連結事業利益の増加により8円増加となった

* 事業の経常的な業績を測る利益指標として、売上収益から売上原価並びに販売費及び一般管理費を控除して算出
** 明細はp.20参照
*** ミャンマー事業の連結除外に伴う為替換算調整勘定(約190億円)の実現等

- 連結の売上収益は対前年プラス12.9%、事業利益は、対前年プラス23.8%と大幅な増収増益となりました。
- 前年の一時コストの反動等により、税引前中間利益は、対前年プラス90.2%の1,085億円、親会社の所有者に帰属する中間利益は対前年プラス78.9%の572億円となりました。
- 平準化EPSは、連結事業利益の増加、持分法による投資利益の増加などにより前年より8円プラスの81円となりました。
- なお、第2四半期における通期業績予想の修正については後ほど、ご説明いたします。

4つのセグメントがバランスよく増益し、全体で大幅な増益



補足

全体

▶ ブランド投資や研究開発費を増額する中でも、各セグメントで売上収益が伸びたことや為替影響により、大幅な増益となった

酒類事業

▶ 主要市場である日豪米において大きな市場の変化はあるが、ブランド投資によりブランド力を高め、着実に増益を達成

飲料事業

▶ Coke Northeastは、価格改定による単価向上や為替影響により大きく増益。キリンビバレッジは主に売上収益が伸びたことによって増益

医薬事業

▶ グローバル戦略品を中心とした売上収益の増加や為替影響により増益

ヘルスサイエンス事業

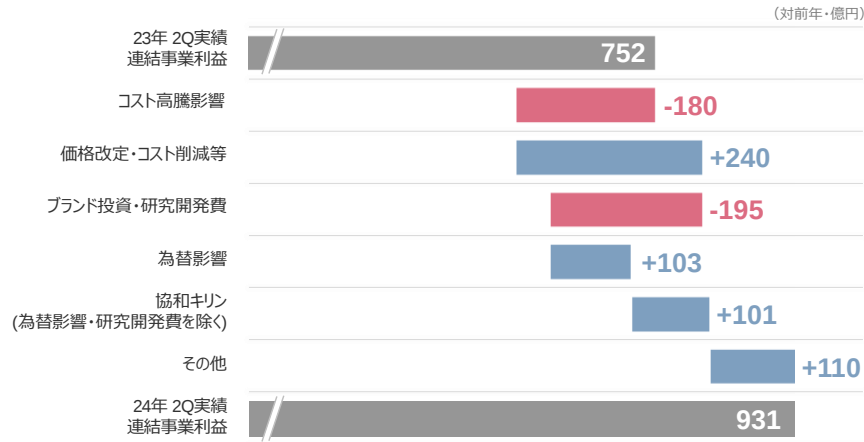
▶ Blackmoresの獲得に伴う収益貢献により、セグメント全体では赤字を縮小

その他

▶ 全社費用・セグメント間取引消去は、情報システム費用等が増加した

- 9ページは、セグメント別の事業利益増減となります。
- 酒類、飲料、医薬、ヘルスサイエンスの4つのセグメントがバランスよく収益改善し、合計で179億円の増益となりました。
- 内訳の事業会社ごとの増減は、後ほどご確認ください。

▶ グループ全体で原材料等のコスト高騰影響を上回る価格改定・コスト削減を実施できている



- ▶ 概ね計画通りブランド投資及び研究開発費を使用するも、それを上回る限界利益の増加や為替影響により増益
- ▶ 年間のコスト高騰及び価格改定・コスト削減等の収益改善額の年間見通しに大きな変更はない
- ▶ 2025年のコスト影響については、今後の交渉により変動するが対2024年でコスト減にはならない見通し

補足 コスト高騰影響：原材料費、燃料費、運搬費、人件費等
価格改定・コスト削減等：価格改定影響、SCMコスト削減、その他販管費削減他。価格改定による販売数量減少の影響を含まない
ブランド投資・研究開発費：キリンビール、キリンビバレッジ、Lion他におけるマーケティング投資の合計及び協和キリンの研究開発費の合計
為替影響：p.9に記載のLion、Four Roses、協和キリン、Coke Northeastにおける為替影響の合計
その他：各事業の売上収益増減による限界利益の増減、全社費用等の増減影響合計

- 10ページをご覧ください。
- 要因別で事業利益の増減をみますと、コスト高騰の影響が約180億円ありましたが、価格改定やコスト削減などによって約240億円を創出し、引き続き、コストアップの影響をオフセットすることができています。
- なお、年間のコストアップ見通しに現時点で大きな変化はありません。

売上収益は為替の影響等を勘案して上方修正し、事業利益については期初計画の達成を目指す

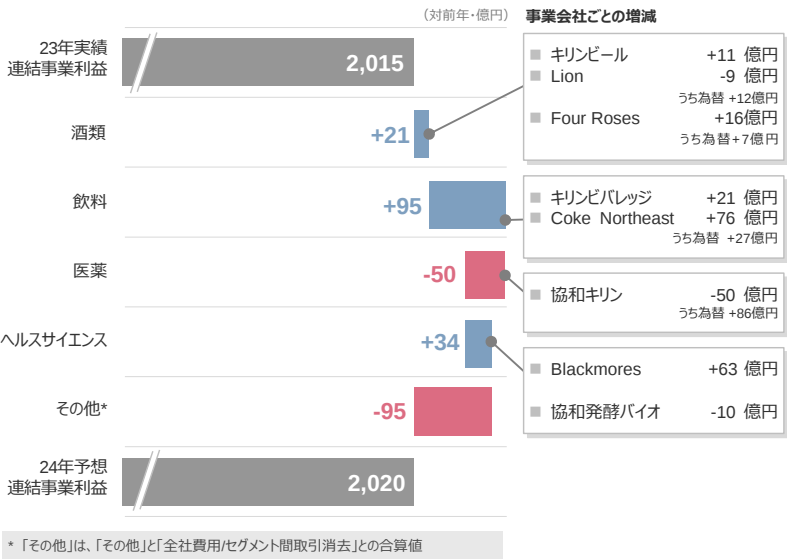
通期業績予想					※通期為替予想レートをそれぞれ以下の通り修正 豪ドル93円⇒97円 米ドル140円⇒151円			
(億円)	24年通期 (修正あり)	23年通期 (実績)	対前年 増減	%	24年通期 (従来予想)	修正額	%	主な修正項目
売上収益	23,000	21,344	1,656	7.8%	22,700	300	1.3%	Coke Northeast+210 / 協和キリン+190 協和発酵バイオ-99 / キリンビール-79
事業利益	2,020	2,015	5	0.3%	2,020	—	—	協和キリン+90 / Coke Northeast+65 協和発酵バイオ-65 / Lion-38
税引前利益	2,160	1,970	190	9.6%	2,190	-30	-1.4%	
親会社の所有者 当期利益	1,140	1,127	13	1.2%	1,310	-170	-13.0%	法人所得税費用

+は期初に対して益方向、-は損方向への修正を指す

定量目標 / 通期予想配当金 (一株当たり)						▶ 主に海外事業会社の資本構成の見直しに伴う課税所得の発生により、法人所得税費用が増加
	24年通期 (修正あり)	23年通期 (実績)	対前年 増減	24年通期 (従来予想)	修正額	
ROIC	6.8%	8.0%	—	8.0%	—	▶ ROIC及び平準化EPSは、主に法人所得税費用の増加により下がる見込みだが、配当は変更しない
平準化EPS	162円	177円	-15円	177円	-15円	
年間配当金	71円	71円	—	71円	—	

- 11ページをご覧ください。
- 連結の通期業績予想ですが、売上収益は上方修正致しますが、事業利益は期初計画である2020億円で変更ありません。
- 好調な協和キリンとCoke Northeastを売上・事業利益ともに上方修正した一方で、市場環境の厳しい協和発酵バイオやLionを下方修正し、為替の前提も見直しています。

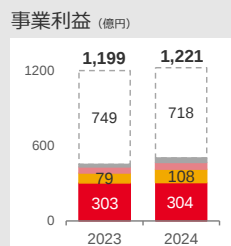
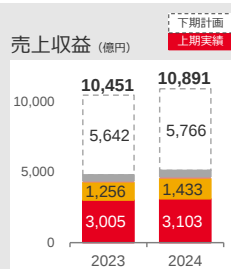
➤ 医薬事業の減益や本社費用増を、他セグメントの増益で補完し、全体では増益を目指す



補足

- 酒類事業**
- Lionは市場縮小により減益となるが、狭義ビール・RTD数量増加や減価償却費減少が寄与する麒麟ビールやFour Rosesにより増益
- 飲料事業**
- Coke Northeastは価格改定による単価向上により、増益。麒麟ビバレッジは、限界利益の改善によって増益を目指す
- 医薬事業**
- パイプラインの開発のための研究開発費増やOrchard社の取り込みの影響により減益
- ヘルスサイエンス事業**
- 協和発酵バイオは主にアミノ酸事業の苦戦により減益となる見込みだが、Blackmoresの獲得に伴う収益貢献により、セグメントとしては増益を目指す
- その他**
- 全社費用・セグメント間取引消去は主に人件費等が増加

- 12ページはセグメント別の業績予想における対前年増減となりますが、ご説明は割愛します。
- ここからは、各セグメントの状況についてご説明しますので、13ページをご覧ください。



上半期は厳しい市場環境がQ1から継続しているが、自社のブランド力は上がってきている
長期的に支持されるブランドのための投資は継続し、前年並みの利益水準を目指す

厳しい市場環境

- 世界的にアルコールに対する見方が厳しくなる傾向が継続
- 日豪米では、ビール類からRTDへのシフトが継続
- 日本国内は引き続き人口減などによりビール類市場の縮小が継続
- 豪州の経済環境は厳しく、インフレなどによりビール市場の縮小が継続
- 北米は過去伸びていたクラフトビール市場が縮小に転じている

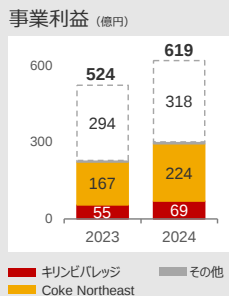
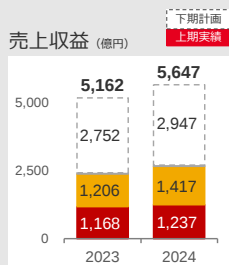
自社の成果と今後の方針

- 市場環境は今後も大きな好転が見込めない中で、長期的に支持されるビールブランドへの投資と成長するRTDカテゴリーへの投資を強化
- 日豪米で好調なブランドが出てきており、市場環境によるネガティブ影響を相殺できている

日本		晴れ風と氷結ブランドの伸長が寄与し、狭義ビールとRTDで、計画を達成。下期も販促を強化する
豪州		2年連続の売上二桁成長を目指している
米国		市場が縮小する中、「Voodoo Rangerシリーズ」は伸長を継続

・キリンビールの実績は酒税込売上収益を記載
© Kirin Holdings Company, Limited

- まず、酒類事業です。
- アルコールに対する見方が世界的に厳しくなっていることや、人口減、インフレなどの影響で、先進国における数量ベースでのビール市場規模の縮小傾向は続いています。
- そのような中でもキリングループの酒類事業各社は、マーケティング手法を常に進化させ、必要なブランド投資を継続してきた結果、各国でブランドコンディションが改善しています。
- 日本においては狭義ビールの新ブランド「晴れ風」が4月の発売以降、毎月計画を上回って推移しており、年間計画も上方修正しました。
- 豪州や米国でもStone & Wood、HahnやVoodoo Rangerなどのブランドが引き続き好調を維持し、弱含みの市場環境の影響を一部相殺できています。
- 今後も必要なマーケティング投資を継続することで、ブランド力の向上を図ってまいります。



日本と北米で、経済状況や競争環境が大きく異なっている
日本は収益性改善に向けた単価向上に取り組み、北米は高い収益性を維持する

継続する市場環境

- ▶ 日本はプレイヤーが多く競争が激しいため、海外と比べて収益性が低い
- ▶ 日本は3年連続で価格改定が実施されるなど、業界全体で値上げの機運が出てきた
- ▶ 北米はインフレも落ち着き始め、消費環境は引き続き底堅い

自社の成果と今後の方針

- ▶ 価格改定及び、差別化戦略としてヘルスサイエンス飲料に取り組むことで、単価向上を目指す
- ▶ 北米においては、価格改定による単価向上の実現とオペレーション効率化により、高い収益性を維持する



- 続いて飲料事業です。
- 飲料事業の主要2社は、日本と北米で経済状況や競争環境が異なりますが、それぞれで収益改善に取り組んでいます。
- 日本の清涼飲料業界では毎年値上げがされるようになっていることはポジティブですが、プレイヤーが多く過当競争である状況は変わっていません。その中でキリンビバレッジは差別化戦略としてのヘルスサイエンス飲料に引き続き注力していきます。
- Coke Northeastは、上半期はこれまでよりさらに高い利益率を実現しており、今後もインフレの中でできる限り収益性の維持に取り組めます。



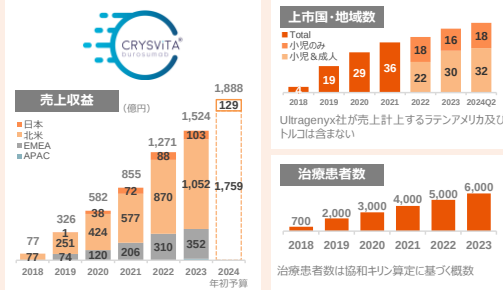
注力するグローバル戦略品が堅調に推移している。パイプラインの開発も順調に進んでおり、適応拡大等による将来の見込み収益向上を狙う

グローバル戦略品の成長

協和キリン

グローバル戦略品

エビデンスに基づくマーケティング・プロモーション活動の強化により成長を継続



EAP(Early Access Program)による収益は2022年度まで売上収益に含めず、2023年度以降は金額的に僅小になることから売上収益に含めている

今後の成長に向けて

KHK4083 / AMG 451(rocatinlimab)

開発が順調に進捗

	開発ステータス			市場規模
アトピー性皮膚炎	1	2	Ph3	1兆円以上**
喘息	1	Ph2	開始	1兆円以上**
結節性痒疹*	1	2	Ph3	5,000億円以上 1兆円未満**

「Story for Vision 2030」

Life-changingな価値創出・提供のための戦略を確実に前進

- APAC事業の再編
- 2030年ビジョンの実現に向けた研究体制への移行



- 医薬事業は、ブロックバスターであるクリスビータの上市国・患者数ともに伸びが継続しており、ポテリジオを含めたグローバル戦略品が好調に推移しています。
- フェイズ3臨床試験中の次世代新薬候補KHK4083は、2つの対象疾患に加え、新たな対象疾患である結節性痒疹（けっせつせい ようしん）の臨床試験が開始され、更なる適用拡大への期待が高まっております。
- また、先週の協和キリンの決算発表と同時に開示されましたが、低分子から抗体医薬や遺伝子治療へのモダリティシフトを加速するために、APACにおける販売体制や、研究開発体制の見直しを行う予定です。



協和発酵バイオは、下半期の販売計画を保守的に見込み下方修正。Blackmoresや他の事業は、期初計画の達成を目指す

上半期の進捗

Blackmores

BLACKMORES
| GROUP

豪州・NZ

BioCeuticalsの力強い成長や4月以降の値上げ等により着実な増収を達成

東南アジア・韓国

ベトナムの粉ミルク事業での製造委託先切替遅れにより減収となったが現在は出荷を再開

中国

価格改定や広告投資により、+20%の増収

下半期の取り組み

- ▶ 豪州・NZ及び中国は、上半期の取り組みを継続し、下半期も期初計画の売上成長率の達成を目指す
- ▶ 東南アジア・韓国は昨年の過剰な在庫解消の反動もあり、下半期は増収に転じる見込み

豪州・NZ 売上収益 (下期計画 対前年) +一桁半ば%
東南アジア・韓国 +二桁%
中国 +二桁%



プラズマ乳酸菌 事業

注) プラズマ乳酸菌入り飲料は「ヘルスサイエンス」セグメントに含まれないが、以下はプラズマ事業全体を示している

- ▶ サプリメントの売上収益は2桁伸張
- ▶ 飲料は主力商品である「おいしい免疫ケア」は伸長しているが、さらなる拡大に向けて新たな挑戦が必要なステージにきている

- ▶ 免疫ケアの需要が高まる秋冬でのプロモーションの強化により、期初計画達成を目指す

売上収益 +30% (年間計画 対前年)



協和発酵バイオ

- ▶ アミノ酸市場の軟調等により厳しい状況が継続

- ▶ 構造改革を最優先に取り組む
- ▶ スペシャリティ事業での限界利益最大化に引き続き注力していく

- 最後は、ヘルスサイエンス事業です。
- Blackmoresはベトナムにおける製造委託先変更等の影響が若干残っておりますが、それ以外は順調です。全体としてはおおむね期初計画通りの売上・利益を年間で目指します。
- プラズマ乳酸菌については、通販を中心としたサプリメントは引き続き順調なものの、「おいしい免疫ケア」などの清涼飲料領域での販売が目標に届いておらず、継続的なチャレンジが必要な状況です。
- 協和発酵バイオは、アミノ酸市況の厳しい市場環境が継続しており、下半期の販売計画を保守的に見込むことといたしました。構造改革の実現を最優先に取り組み、早期に道筋を発表できるように取り組んでまいります。
- 私からのご説明は以上となります。
- ご清聴ありがとうございました。

Social

“免疫ケア”を通じた「健康サポートアクション」 「#ヒーローに免疫を」プロジェクトをスタート！



詳細はこちら



電気力で減塩食品の塩味やうま味を増強する「エレキソルトスプーン」を数量限定で販売を開始

詳細はこちら



キリンのサッカー応援活動による社会的インパクトを初可視化

- ▶ 「キリンチャレンジカップ」「キリンファミリーチャレンジカップ」について、費用と生み出した社会的価値の比率を算出し、それぞれ8.0倍、1.4倍の価値創出に繋がっていることが判明



詳細はこちら

キリンのサッカー応援活動に関する社会的価値分析



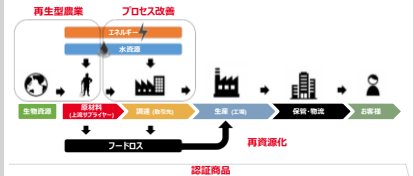
Environment

サプライヤーとGHG（温室効果ガス）排出量の削減を目指す「キリンサプライチェーン環境プログラム」をスタート

- ▶ 当社の中期目標「2030年までに2019年比でグループ全体のGHG Scope3排出量を30%削減」のうち、1/3に当たる10%の削減に寄与すると想定



詳細はこちら



開示媒体

「統合レポート2024」発行

詳細はこちら



- ▶ 価値創造モデルに沿ったストーリー性を強化することでCSV経営の進捗をわかりやすく伝達することを目指した

「環境報告書2024」発行

詳細はこちら



- ▶ TCFD**提言やTNFD***提言など複数の開示フレームワークを統合し、環境経営情報の開示を試行

* Social Return on Investment 費用に対してどの程度社会的価値が創出されたかを倍率で示したもの
 ** Taskforce on Climate-related Financial Disclosures
 *** Taskforce on Nature-related Financial Disclosures

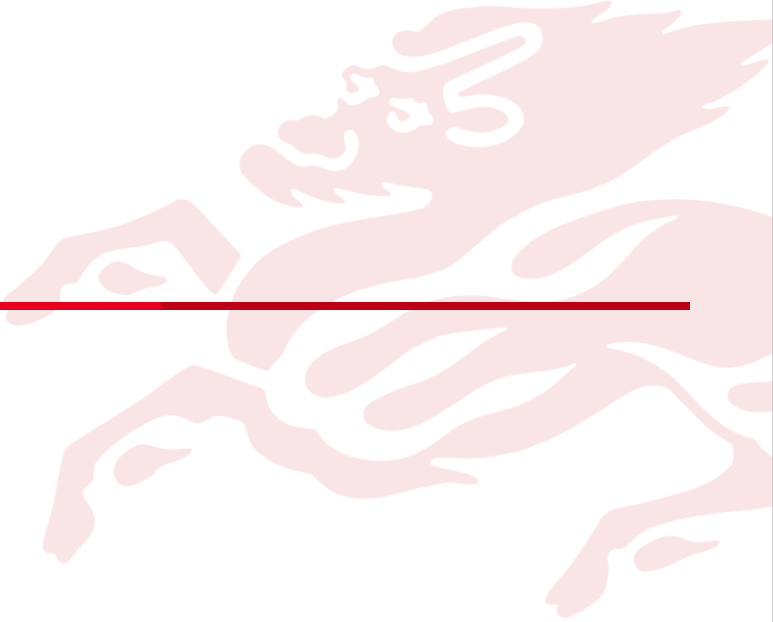


よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together



資料編

Joy brings us together



(億円)		24年2Q実績	23年2Q実績
親会社の所有者に帰属する中間利益	①	572	320
税金等調整後その他営業収益／費用等	②	81	274
平準化 中間利益	③ = ① + ②	653	594
期中平均株式数 (千株)	④	809,892	809,834
平準化EPS (円)	③ ÷ ④	81円	73円

2024年度 2Q実績：セグメント別 売上収益



(億円)		24年2Q実績	23年2Q実績	増減	%
連結 売上収益		10,958	9,702	1,256	12.9%
酒類		5,125	4,809	316	6.6%
	麒麟ビール	3,103	3,005	98	3.3%
	Lion	1,433	1,256	177	14.1%
	うち豪州・NZ	952	870	82	9.5%
	うち北米クラフト他	481	386	95	24.6%
	Four Roses	125	115	9	8.2%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	464	433	31	7.1%
飲料		2,700	2,410	290	12.0%
	麒麟ビバレッジ	1,237	1,168	70	6.0%
	Coke Northeast	1,417	1,206	211	17.5%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	46	37	9	25.7%
医薬		2,328	1,990	338	17.0%
	協和麒麟	2,330	1,992	338	16.9%
	セグメント間取引消去	-1	-2	1	—
ヘルスサイエンス		696	362	334	92.2%
	Blackmores	334	—	334	—
	協和発酵バイオ	254	262	-8	-3.1%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	108	100	8	8.1%
その他		109	131	-22	-17.0%

2024年度 業績予想修正：セグメント別 売上収益



(億円)		2024年 修正予想	2023年 実績	対前年 増減	%	2024年 従来予想	予想 修正額	%
連結 売上収益		23,000	21,344	1,656	7.8%	22,700	300	1.3%
酒類		10,891	10,451	440	4.2%	10,928	-36	-0.3%
	キリンビール	6,687	6,481	206	3.2%	6,766	-79	-1.2%
	Lion	2,967	2,811	156	5.6%	2,963	4	0.1%
	うち豪州・NZ	2,027	1,988	39	2.0%	2,049	-22	-1.1%
	うち北米クラフト他	940	823	117	14.3%	914	26	2.9%
	Four Roses	273	245	28	11.4%	265	9	3.3%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	964	914	49	5.4%	935	29	3.1%
飲料		5,647	5,162	485	9.4%	5,442	204	3.8%
	キリンビバレッジ	2,761	2,578	183	7.1%	2,766	-4	-0.2%
	Coke Northeast	2,800	2,501	298	11.9%	2,590	210	8.1%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	86	82	3	4.2%	87	-1	-1.0%
医薬		4,920	4,419	501	11.3%	4,730	190	4.0%
	協和キリン	4,920	4,422	498	11.3%	4,730	190	4.0%
	セグメント間取引消去	—	-4	4	—	—	—	—
ヘルスサイエンス		1,409	1,034	375	36.3%	1,468	-60	-4.1%
	セグメント間取引消去	689	320	370	115.6%	674	16	2.4%
	Blackmores	490	514	-24	-4.7%	589	-99	-16.8%
	その他・内部及びセグメント間取引消去	229	199	30	14.9%	206	23	11.4%
その他		133	278	-145	-52.2%	131	2	1.4%

2024年度 2Q実績：セグメント別 事業利益



(億円)		24年2Q実績	23年2Q実績	増減	%
連結 事業利益		931	752	179	23.8%
酒類		503	450	54	11.9%
	麒麟ビール	304	303	1	0.5%
	Lion	108	79	29	36.8%
	うち豪州・NZ	64	38	26	68.5%
	うち北米クラフト他	44	41	3	7.2%
	Four Roses	55	49	6	12.7%
	その他	36	19	17	87.2%
飲料		301	230	71	31.0%
	麒麟ビバレッジ	69	55	14	25.0%
	Coke Northeast	224	167	57	33.9%
	その他	8	7	1	12.6%
医薬		411	361	50	13.7%
	協和麒麟	411	361	50	13.7%
ヘルスサイエンス		-16	-44	28	—
	Blackmores	31	—	31	—
	協和発酵バイオ	-31	-30	-1	—
	その他	-16	-14	-2	—
その他		-3	-4	1	—
全社費用・セグメント間取引消去		-265	-240	-25	—

2024年度 業績予想修正：セグメント別 事業利益



(億円)		2024年 修正予想	2023年 実績	対前年 増減	%	2024年 従来予想	予想 修正額	%
連結 事業利益		2,020	2,015	5	0.3%	2,020	—	—
酒類		1,221	1,199	21	1.8%	1,242	-22	-1.7%
	麒麟ビール	740	729	11	1.5%	735	5	0.7%
	Lion	315	324	-9	-2.7%	353	-38	-10.8%
	うち豪州・NZ	202	221	-19	-8.7%	245	-44	-17.8%
	うち北米クラフト他	113	103	10	10.1%	108	6	5.1%
	Four Roses	106	90	16	17.8%	98	8	7.9%
	その他	60	57	3	5.5%	56	3	5.9%
飲料		619	524	95	18.2%	552	66	12.0%
	麒麟ビレッジ	190	169	21	12.5%	190	—	—
	Coke Northeast	415	339	76	22.4%	350	65	18.6%
	その他	14	15	-2	-12.8%	12	1	8.3%
医薬		910	960	-50	-5.2%	820	90	11.0%
	協和麒麟	910	960	-50	-5.2%	820	90	11.0%
ヘルスサイエンス		-91	-125	34	—	-26	-65	—
	Blackmores	58	-5	63	—	58	0	0.3%
	協和発酵バイオ	-95	-85	-10	—	-30	-65	—
	その他	-54	-36	-18	—	-54	-1	—
その他		-11	-1	-10	—	-11	0	—
全社費用・セグメント間取引消去		-627	-542	-85	—	-558	-69	—

2024年度 2Q実績：麒麟ビール



(億円)	24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減	%
売上収益	3,103	3,005	98	3.3%
酒税抜売上収益	1,886	1,816	70	3.9%
事業利益	304	303	1	0.5%

23年2Q 事業利益 (億円)		303	主な内容
対 前 年 増 減	酒類等 限界利益増	69	ビール類計 2億 (ビール類減 -15千kl) ビール類以外計 22億 (RTD増 13千kl、ノンアル減 -0千kl) 他 価格改定・品種構成差異等 45億
	原材料費増	-46	市況の高騰等
	販売費増	-38	販売促進費増 -23億・広告費増 -14億 (計284億→322億)
	その他費用減	16	減価償却費減 他
	計	1	
24年2Q 事業利益		304	

(千KL)	24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減 %	市場 (カテゴリー)
ビール類計*	664	679	-2.2%	-2%
RTD	206	194	6.5%	5%
ノンアルコール飲料	18	19	-1.4%	11%

* ビール酒造組合での合意により、ビール類の販売数量実績は、2Q及び4Qのみ開示

一番搾りブランド計	168	164	2.5%	7%
スプリングバレーブランド計	8	10	-21.9%	7%
淡麗グリーンラベル	66	70	-6.9%	-12%**
本麒麟	86	91	-6.2%	-12%**
氷結ブランド計	140	128	9.4%	5%

* 2023年度からビールカテゴリーの開示はビール類のみとし、主力ブランドとチャネル別の明細を記載

** 発泡酒・新ジャンル（発泡酒②） 合算のエコノミーカテゴリー 前年比を記載

販売数量前年比	増減 %	市場
ビール類 業務用***	-0%	+1桁前半
ビール類 家庭用***	-3%	-4%

*** 業務用：壺・樽・PET商品計、家庭用：缶計

2024年度 業績予想修正：麒麟ビール



(億円)					2024年	
					従来予想	修正額
					2024年	2023年
					実績	増減
					%	
売上収益	6,687	6,481	206	3.2%	6,766	-79
酒税抜売上収益	4,050	3,922	128	3.3%	4,093	-43
事業利益	740	729	11	1.5%	735	+5

2023年 事業利益実績 (億円)		2023年 事業利益実績 (億円)	
729	対前年増減	729	対前年増減
酒類等 限界利益 増		酒類等 限界利益 増	
102		119	
ビール類計 18億 (ビール類減 -3千kl)		ビール類以外計 18億 (RTD増 18千kl、 ノンアル減 -3千kl) 他	
価格改定・ 品種構成差異等 66億		市況の高騰等	
原材料費 増		原材料費 増	
-77		-72	
販売費 増		販売費 増	
-28		-32	
その他費用 減		その他費用 増	
14		-9	
計		計	
11		6	
2024年 事業利益修正予想		2024年 事業利益従来予想	
740		735	

(千KL)	2024年 修正予想	2023年 実績	増減 %	2024年 従来予想	修正値
ビール類計	1,439	1,442	-0.2%	1,479	-41
RTD	442	424	4.2%	429	+13
ノンアルコール飲料	40	43	-6.2%	46	-6
一番搾りブランド計	374	370	1.0%	370	+4
スプリングバレーブランド計	16	21	-23.2%	26	-10
淡麗グリーンラベル	142	146	-2.9%	147	-6
本麒麟	187	194	-3.6%	188	-0
氷結ブランド計	294	288	+1.9%	273	+20

* 2023年度からビールカテゴリーの開示はビール類のみとし、主力ブランドとチャネル別の明細を記載
** 発泡酒・新ジャンル（発泡酒②） 合算のエコノミーカテゴリー前年比を記載

円ベース (億円)

	24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減	%
売上収益	1,433	1,256	177	14.1%
うち豪州・NZ	952	870	82	9.5%
うち北米クラフト他	481	386	95	24.6%
事業利益	108	79	29	36.8%
うち豪州・NZ	64	38	26	68.5%
うち北米クラフト他	44	41	3	7.2%

豪ドルベース (million AUD)

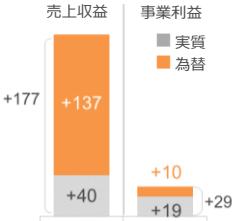
	24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減	%
	1,415	1,372	43	3.2%
	940	950	-10	-1.1%
	475	422	53	12.6%
	107	86	20	23.7%
	63	42	22	52.4%
	43	45	-1	-3.1%

豪州・NZ事業利益増減 (million AUD)

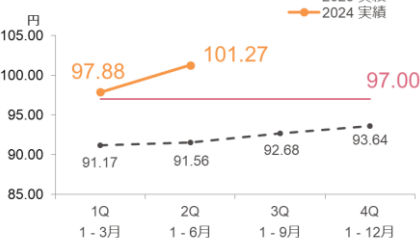
23年2Q 事業利益	41
数量	-11
豪州・NZ	
その他*	33
24年2Q 事業利益	63

* 本社コストは、豪州・NZを含む
・ 対前年販売数量増減率は豪州・NZ・北米クラフト他の合計で-1%、豪州のみでは-2%。

連結為替影響
2024年2Q実績 (億円)



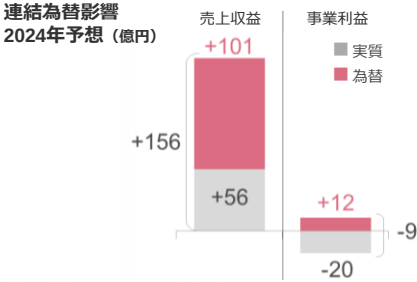
AUD (オーストラリア・ドル)





	円ベース (億円)						豪ドルベース (million AUD)					
	2024年 修正予想	2023年 実績	増減	%	2024年 従来予想	修正額	2024年 修正予想	2023年 実績	増減	%	2024年 従来予想	修正額
売上収益	2,967	2,811	156	5.6%	2,963	4	3,059	3,002	57	1.9%	3,186	-127
豪州・NZ	2,027	1,988	39	2.0%	2,049	-22	2,090	2,123	-33	-1.6%	2,203	-113
北米クラフト他	940	823	117	14.3%	914	26	969	878	91	9.4%	983	-14
事業利益	315	324	-9	-2.7%	353	-38	325	346	-21	-6.5%	380	-55
豪州・NZ	202	221	-19	-8.7%	245	-44	208	236	-28	-13.4%	264	-56
北米クラフト他	113	103	10	10.1%	108	6	117	110	7	5.9%	116	1

通期予想レート : 97.00円 (豪ドル)





(億円)	24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減	%
売上収益	1,237	1,168	70	6.0%
事業利益	69	55	14	25.0%

23年2Q 事業利益 (億円)		55	主な内容
対前年増減	清涼飲料限界利益増	17	販売数量増 645万ケース 31億 商品・容器構成差異等 -14億
	原材料費等増	-6	原料費増 -15億、材料費減 1億、 加工費減 8億
	販売費減	9	販売促進費減 8億、広告費減 1億 (計121億 → 112億)
	その他費用増	-6	
	計	14	
24年2Q 事業利益		69	

販売数量 (万ケース)		24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減
清涼飲料計		9,270	8,626	7.5%
ヘルスサイエンス飲料		1,088	1,143	-4.8%
うちプラズマ乳酸菌入り飲料		446	405	10.1%
缶		970	1,072	-9.5%
容器別	大型PET	2,620	2,140	22.4%
	小型PET	5,009	4,521	10.8%
その他		672	893	-24.8%

販売数量 (万ケース)		24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減
ブランド別	午後の紅茶	2,403	2,293	4.8%
	生茶	1,500	1,185	26.6%

2024年度 業績予想修正：キリンビバレッジ



(億円)	2024年 修正予想	2023年 実績	増減	%	2024年 従来予想	修正額
売上収益	2,761	2,578	183	7.1%	2,766	-4
事業利益	190	169	21	12.5%	190	-
2023年 事業利益 (実績) (億円)	169	主な内容			2023年 事業利益 (実績) (億円)	169
対 前 年 増 減	清涼飲料限界 利益増	103	販売数量増 582万ケース 27 億 商品・容器構成差異等 76億		清涼飲料 限界利益 増	152
	原材料費等 増	-53	原料費増 -36億、材料費増 -13億、加工増 -4億		原材料費 増	-77
	販売費減	5	販売促進費減・広告費減 5 億 (計256億 → 251億)		販売費 増	-24
	その他費用増	-34	販売機器費増、業務委託料増 他		その他費用 増	-30
	計	21			計	21
2024年 事業利益 修正予想	190				2024年 事業利益 従来予想	190

販売数量 (万ケース)	2024年 予想	2023年 実績	増減 %	2024年 従来予想	修正値
清涼飲料計	19,975	19,394	3.0%	19,516	459
ヘルスサイエンス 飲料	2,677	2,460	8.9%	2,816	-139
うちプラズマ 乳酸菌入り飲料	1,253	893	40.3%	1,242	11
缶	2,008	2,146	-6.4%	2,146	-138
容 大型PET	5,365	5,210	3.0%	4,822	543
器 別 小型PET	11,225	10,239	9.6%	10,904	321
その他	1,377	1,799	-23.4%	1,644	-267

		2024年 予想	2023年 実績	増減 %	2024年 従来予想	修正値
販売数量 (万ケース)						
ブランド別	午後の紅茶	5,231	5,092	2.7%	5,104	127
	生茶	3,098	2,781	11.4%	2,767	331



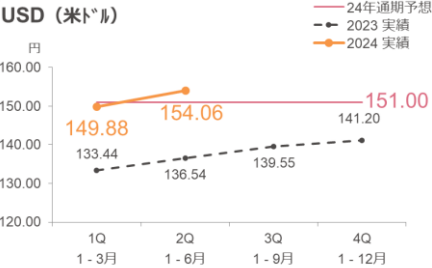
円ベース (億円)				
	24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減	%
売上収益	1,417	1,206	211	17.5%
事業利益	224	167	57	33.9%

円ベース (億円)						
	2024年 修正予想	2023年 実績	増減	%	2024年 従来予想	修正額
売上収益	2,800	2,501	298	11.9%	2,590	210
事業利益	415	339	76	22.4%	350	65

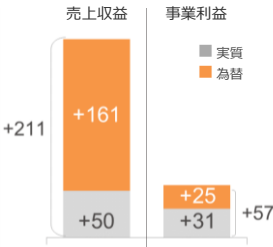
USDベース (million \$)				
	24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減	%
売上収益	920	883	37	4.2%
事業利益	145	123	23	18.6%

USDベース (million \$)						
	2024年 修正予想	2023年 実績	増減	%	2024年 従来予想	修正額
売上収益	1,854	1,772	83	4.7%	1,850	4
事業利益	275	240	35	14.5%	250	25

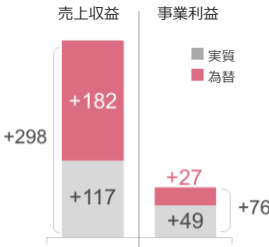
通期予想レート : 151.00円 (米ドル)



連結為替影響
2024年2Q実績 (億円)



連結為替影響
2024年予想 (億円)



(億円)	24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減	%
売上収益	2,330	1,992	338	16.9%
事業利益	411	361	50	13.7%

	2024年 修正予想	2023年 実績	増減	%
売上収益	4,920	4,422	498	11.3%
事業利益	910	960	-50	-5.2%

2024年 従来予想	修正額
4,730	190
820	90

グローバル戦略品
売上収益 (億円)

(億円)	Crysvita クリースピータ		Poteligeo ポテリジオ	
	24年2Q	23年2Q	24年2Q	23年2Q
日本	54	48	10	9
北米	587	460	141	94
EMEA	254	153	39	31
APAC	13	6	—	—
合計	910	667	190	134

協和キリンの決算発表はこちら

<https://ir.kyowakirin.com/ja/library/earnings.html>



2024年度 2Q実績 : Blackmores



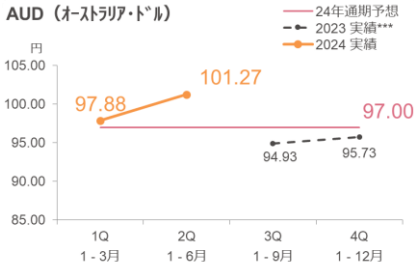
	円ベース (億円)			
	24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減	%
売上収益*	334	-	334	-
豪州・NZ	149	-	149	-
東南アジア・韓国	80	-	80	-
中国	102	-	102	-
事業利益**	31	-	31	-

・ Blackmores連結取り込み開始は23年3Qのため、2023年実績に1Q・2Qの実績は含まれない

	豪ドルベース (million AUD)			
	24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減	%
売上収益*	330	-	330	-
豪州・NZ	147	-	147	-
東南アジア・韓国	79	-	79	-
中国	101	-	101	-
事業利益**	31	-	31	-

[参考]

	豪ドルベース (million AUD)		
	24年2Q 実績	23年2Q 実績	%
売上収益*	330	320	3.0%
豪州・NZ	147	141	4.2%
東南アジア・韓国	79	93	-15.4%
中国	101	84	20.0%



* その他受託業務を含む合計 ** PPA (Purchase Price Allocation) による無形資産等の償却費・一時コストを含む *** 3Q:7-9月実績、4Q:7-12月実績

2024年度 業績予想修正 : Blackmores



円ベース（億円）						
	2024年 修正予想	2023年 (下半期) 実績	増減	%	2024年 従来予想	修正額
売上収益*	689	320	370	115.6%	674	16
事業利益**	58	-5	63	-	58	0

* Blackmores連結取り込み開始は23年3Qのため、2023年実績に1Q・2Qの実績は含まれない

豪ドルベース（million AUD）					
	2024年 修正予想	2023年 実績	増減	%	
	2024年 従来予想				修正額
	711	334	377	112.7%	724
	60	-5	65	-	62
					-13
					-2

通期予想レート：97.00円（豪ドル）

[参考]			
豪ドルベース（million AUD）			
	2024年 修正予想	2023年 実績(年間)	2024年期央 前年比%(年間)
売上収益*	711	654	8.7%
豪州・NZ	-	300	+ 1桁半(ば)%
東南アジア・韓国	-	169	+ 1桁半(ば)%
中国	-	182	+ 2桁%

© Kirin Holdings Company, Limited

* その他受託業務を含む合計

** PPA (Purchase Price Allocation) による無形資産等の償却費・一時コストを含む

前年の価格改定前に発生した仮需の反動によってEBITDAは減少するも、為替影響により受取配当金は増加。

(百万ペソ)	2023年10月-2024年3月		前年同期
	実績	増減 %	実績
売上高*	76,381	1.1%	75,578
営業利益*	15,425	-1.9%	15,728
営業利益率	20.2%	—	20.8%
減価償却費及び償却費他*	3,397	5.8%	3,212
EBITDA (営業利益 + 減価償却費及び償却費他)	18,822	-2.5%	19,309

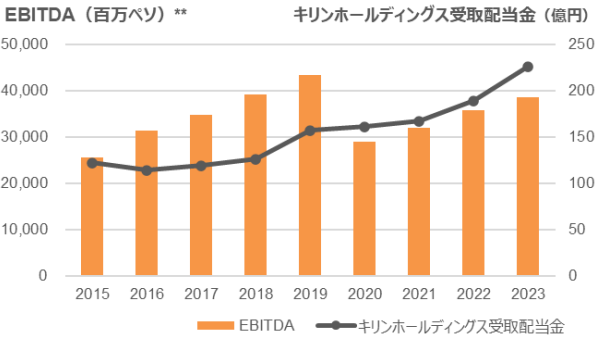
* 現地開示ベース（キリンホールディングス 2024年度2Q決算への取り込み期間：2023年10月～2024年3月）
出所：San Miguel Brewery Inc. Financial Highlights, Quarterly Reports

持分法による連結取込み及びキリンホールディングス受取配当金

(億円)	24年2Q	23年2Q	増減 %
当期利益 (SMB)	330	306	8%
連結取込	157	149	5%
配当金 (億円)	120	109	10%
1株当たり配当金 (ペソ)	0.60	0.60	—

為替レート：1ペソ = 2.66円（前年同期：2.47円）
（キリンホールディングス 2024年度決算への取り込み期間：2023年10月～2024年3月）
配当金についてはキャッシュインベースで計上

EBITDAと受取配当金の推移



- フィリピンの2024年GDP予測は約6%***
- 堅調な内需が成長を牽引し、2025年頃まで同程度の経済成長率で推移すると予測***
- San Miguel Breweryのフィリピンでの市場シェアは9割を超える

(億円)	24年2Q 実績	23年4Q 実績	増減
資産合計	31,349	28,696	2,653
資本合計	15,883	14,258	1,625
負債合計	15,466	14,437	1,029
ROIC*	—	8.0	—
グロスDELシオ	0.56	0.58	—
ネットDebt／平準化EBITDA**	—	1.79	—
PBR(株価純資産倍率) ***	1.3	1.5	—
ROIC・ネットDebt／平準化EBITDAは4Qのみ開示			

(億円)	24年2Q 実績	23年2Q 実績	増減
営業活動CF	1,087	589	498
投資活動CF	-1,160	-560	-600
フリーCF	-73	29	-103
財務活動CF	-216	156	-371

* 利払前税引後利益／(有利子負債の期首期末平均＋資本合計の期首期末平均) にて算出
** 平準化EBITDA＝事業利益＋減価償却費及び償却費(注)＋持分法適用会社からの受取配当金にて算出
(注) 減価償却費及び償却費は使用権資産の償却費を除いております。
*** 期末株価終値／(親会社の所有者に帰属する持分／期末発行済株式数(自己株式除く)) にて算出

三
補足

財政状態計算書

▶**資産合計**：棚卸資産、有形固定資産の増加及び Orchard Therapeutics plcの買収に伴うのれん、無形資産の増加等により前年度末に比べ2,653億円増加して3兆1,349億円となりました。

▶**資本合計**：為替変動の影響等によるその他の資本の構成要素の増加等により、前年度末に比べ1,625億円増加して1兆5,883億円となりました。

▶**負債合計**：新規借入等による社債及び借入金の増加等により、前年度末に比べ1,029億円増加して1兆5,466億円となりました。

▶**グロスDELシオ**：有利子負債が11%増加した一方で、親会社の所有者に帰属する持分が14%増加したことから、前年度末から減少しました。

▶**PBR**：親会社の所有者に帰属する持分が14%増加した一方で、期末株価終値が0.3%の上昇だったことから、前年度末から減少しました。

キャッシュ・フロー計算書

▶**営業活動CF**：運転資金の流入は91億円増加、法人所得税の支払額は106億円増加しました。

▶**投資活動CF**：有形固定資産及び無形資産の売却により38億円、投資の売却により16億円の収入がありました。一方、有形固定資産及び無形資産の取得については、前年同期に比べ94億円増加し685億円を支出、また子会社株式の取得により482億円を支出しました。

▶**財務活動CF**：長期借入により1,034億円、コマーシャル・ペーパーの増加により200億円の収入がありました。一方、長期借入金の返済により536億円、配当金の支払により368億円の支出がありました。

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.

